

だれもがハッピー

2045年、僕は具体的にどんな仕事かは考えられていないけど、世界中の人たちの役に立てるような仕事をしていたい。そのために毎日、一生懸命に学校の勉強をしたり、海の掃除や地域行事に参加したりしている。近くに暮らしている祖母は、そんな僕にいつも「がんばれ」と言ってくれる一番の応援団だ。二年前には一緒に自動運転車に乗って、「未来が楽しみだね」と話した。

ところが先日、僕がこの作文の案内を祖母に見せて、「2045年までも元気で一緒に暮らしたいね」というと、祖母は「2045年まで長生きしてもいいことなんかないよ。大変なことがまた増えるだけ」といった。僕は、そんな夢が無いようなことを祖母に行ってほしくなかった。だから、日常生活の中で何か困っていたり、大変だったりすると聞くと、あれやこれやといっぱい出てきて、なんと十個以上にもなった。僕は毎日祖母の家に行って、ゴミ出しや買いなどを手伝っていた。しかし、ちょうど一年前に新型コロナウイルスが世界中に広がってきたので、僕は祖母の家にほとんど行かなくなったし、祖母も出歩かなくなった。その影響で、もともと杖の生活だった祖母の足はもっと弱くなって、生活が不便になってしまっていた。だから、僕は祖母に「2045年までに僕が、身の回りの困っていることを全部解決できるロボットを頑張って作ってあげるよ」と言った。しかし、祖母は「そんなのいらないよ」と答えた。なぜ困っていることを解決できるのにいらないと言うのだろうか。

そこで、母にそのことを話した。母は2045年には60代だ。すると母は「あれば楽だけ

どいらないね。楽になっても楽しくはないんだよ」と言った。母までそんなことを言うんだと、僕は悲しくなった。僕だっていつかは必ずおじいさんになる。その時に僕もそんな風に思うのだろうか。年をとっても、楽しいって思えるためには何が必要なんだろう。

それは、会いたい人にいつでも会えて、行きたいところにいつでも行けて、食べたいものがいつでも食べられることだと、僕は考えた。これはすべて、新型コロナウイルスの影響で、僕や世界中の人ができなくなったことだ。だから今、僕は祖母の気持ちが少し理解できる。

そこで僕が考える 2045 年の理想の社会は「どこを探しても困っている人がいないハッピーな社会」だ。毎日の家事などの身の回りのことは、思い切ってロボットに任せよう。会いたい人に会いに行ったり、行きたいところにいつでも行ったりしたいときはボタン一つで自動運転車が迎えに来てくれる。出かけられない時は、これもボタン一つで、家の壁が大型スクリーンになって、会いたい人が映し出されて話ができたり、観光地を歩いたりできる。音も香りも出るし、風も吹くし、買い物だってできる。食べたいものは、ボタン一つでお料理マシンが作ってくれる。だから、友達とスクリーンで話しながら、食事もできる。何を着ようかと悩まなくてもいい。無色透明の特殊素材をオーダーメイドマシンに入れて服のデザインを選ぶと、選んだ服ができあがる。繰り返し使える素材なのでエコだ。家事をしないでいい分、誰かの手伝いもできる。どんどん周りに声をかけよう。

これから僕たちは、子供からお年寄りまで楽しめるイベント、空間や服のデザイン、音楽、料理のレシピや、困っている人が必要としているものなどを作る。誰もが「どこを探しても困っている人がいないハッピーな社会」を実現するために、自分の好きなことを活

かして、新しい仕事をどんどん作る。だから、2045年は誰もがハッピーで、笑顔いっぱいの社会になっている。もちろん、祖母も長生きして、僕と一緒に暮らしているだろう。「長生きして良かった」と笑いながら。